

俵 I V F クリニック



たわら 史子 理事長 (44歳)

晩産化、少子化に影響

「静岡市内に開業して間もなく10年。着床前診断や卵子凍結技術など、不妊治療をめぐる医療技術は進化している。一方で、治療を訪れる人たちの初診年齢は高齢化

し、30代後半から40代が中心。初産年齢が遅くなると、第2子以降の出産にも影響する。2人以上の子どもを望む夫婦は多いものの、出産に向き合う時期が高齢化しているために、結果として少子化につながっている印象だ」

「医療費助成など不妊治療を受けやすくなる制度は必要だが、根本的な少子化対策につながると思えない。通院回数が増すほどに、仕事と治療の両立は難しくなるのも現実で、ワークライフバランスにも影響する。男女ともに20代のうちから、結婚や子どもを持つことに前向きになれる社会の仕組みや教育が必要だと感じている。また、県外に進学した若者が就職で戻ってこない状況も人口流出につながっている。『地元に戻って働きたい』と思える魅力的な企業情報や、地元で働くメリットをもっと発信する必要がある」

「10年後に向け、どう取り組むか。『出産を望む夫婦の治療と仕事、治療後の出産や子育ての支援の在り方をさらに追求したい。また、地域の周産期医療関係者との連携で、安全な出産を意識した治療につなげたい』」

(毎月1回掲載します)

【俵 I V F クリニック】不妊治療専門クリニックとして2007年に静岡市駿河区に開院、15年に同区泉町2の20に新築移転した。一般的な不妊治療から体外受精、顕微授精などの高度生殖医療を提供。体質改善や男性不妊外来、漢方、はり治療なども行う。医師、看護師を含む従業員は63人。

【中部未来懇話会】正会員は県中部地域を中心とした企業、各種団体、個人。特別会員として県、市町の首長・職員、議会・議員。研究部会による調査、研究、地域問題討議会などを通して10年後の中部地域の姿を描き、政策提言活動を行う。問い合わせは同懇話会<電054(260)5889>へ。

10年後への提言 中部未来懇話会

●●64